

「2017年度東北地域企業アウトバウンド旅客調査」報告書
東北地域の企業に対して仙台空港活用のメリットを周知し、
東北全体で活用していく機運醸成を図ることが重要です。

当所が事務局を務める仙台空港国際化利用促進協議会と(株)日本政策投資銀行、仙台国際空港(株)、(一社)東北経済連合会は4者共同で、「2017年度東北地域企業アウトバウンド旅客調査」報告書」と題した調査レポートを昨年12月に発行しました。

当レポートは、平成28年の空港民営化を受けて、東北6県所在の仙台商工会議所議員企業および東北経済連合会会員企業を対象に、①海外出張の実態、②仙台空港への期待、③韓国仁川空港経由での海外出張の可能性に関するアンケートを行い、その結果を取りまとめたものです(東北6県の816社に調査票を郵送し、338社が回答。回収率41.4%。調査期間は平成29年4月19日～5月31日)。

これらの結果から見える傾向や特徴、企業からの声を分析し、仙台空港が東北の「プライマリー・グローバル・ゲートウェイ」として、「東北を発着する旅客に一番に選ばれる空港」になるべく、今後の空港運営や利用促進策の検討に生かしていくことを目的としています。今月号ではそのポイントを紹介します。

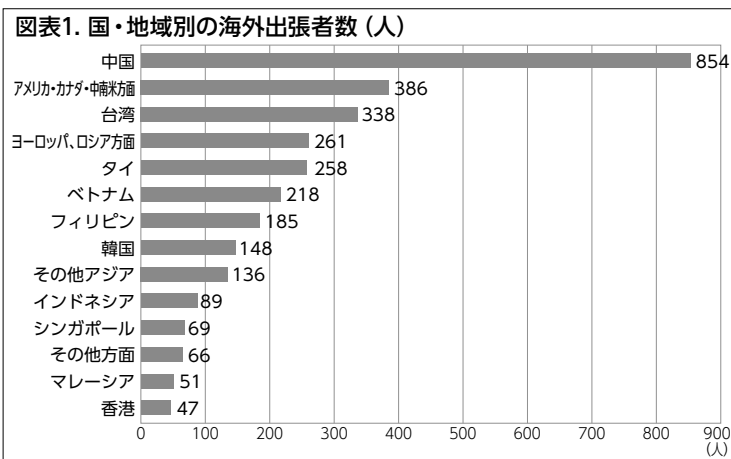
1. 海外出張者数

本調査における東北地域企業の調査

対象期間であった平成28年度1年間の延べ海外出張者数は、3106人となりました(回答企業338社のうち、「海外出張有り」と回答した149社の集計)。

2. 訪問先

訪問先【図表1参照】は、アジア方面(2393人)が最も多く、全体の8割弱を占めています。国別では中国



(854人)が最も多く、次いで、アメリカ・カナダ・中南米方面(386人)、台湾(338人)、ヨーロッパ・ロシア方面(261人)、タイ(258人)、ベトナム(218人)の順となりました。仙台空港から定期直行便のある中国や台湾、韓国をはじめ、定期直行便のない欧米や新興アジア諸国(タイ、ベトナム、フィリピン等)など幅広い国や地域に対して東北6県から海外出張している実態が明らかになりました。

3. 出発空港

出発空港【図表2参照】は、成田空港(2186人)が全体の7割強と最も多く、次いで、羽田空港(610人)の順。仙台空港の利用は263人と、わずか8.5%にとどまり、今後は海外路線拡充などによる利便性向上を図る必要性がうかがえます。

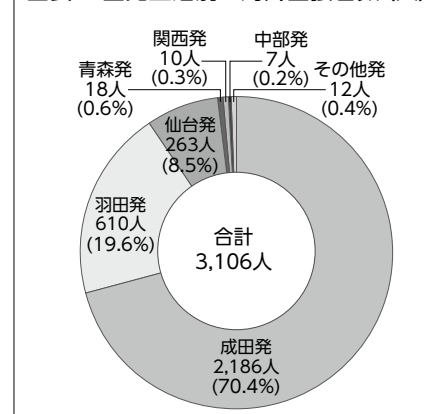
4. 仙台空港に望む改善点

仙台空港に望む改善点を見ると、「東北各地から仙台空港までのアクセス手段」と答えた企業が最も多く、104社。次いで、「国際線発着便の運航時間帯」(82社)、「駐車場の使い勝手」(50社)の順となっています。一方、「特に改善してほしい点はない」と回答した企業も83社ありました。

5. 韓国仁川空港経由での海外出張

過去に仙台空港から仁川空港を経由して第三国に海外出張した人があるか尋ねたところ、「いた」と回答した企

図表2. 出発空港別の海外出張者数(人)



業は22社。全体の9割を超える298は「いない」と回答しており、豊富な航空路線網を有する仁川空港経由によるトランジット(乗り換え)・プランのさらなる普及啓発が必要と言えます。

今回の調査結果から、東北地域企業の仙台空港に寄せる期待は、新規国際線の就航やアクセス改善等を中心に大きいものの、まだ仙台空港が東北地域企業から十分に活用されているとは言い難い実態が明らかになりました。

今後は、仙台空港のさらなる利活用が東北の地域や企業に利益をもたらすという考えの下で、「仙台空港を『東北地域の財産』と位置づけ、東北地域全体で活用していく」機運を醸成していくことが重要です。

調査結果の詳細は当所ホームページに掲載していますので、ご覧ください。お問い合わせは、当所地域づくり推進グループ(TEL265-8184)まで